



## 牛久保 明邦氏からのご意見

### 食品リサイクル

- 食品リサイクル法のコンセプトは3R（Reduce、Reuse、Recycle）、いわゆる発生抑制、再利用、リサイクルという観点です。発生抑制とは、製造工程で出る廃棄物、返品、規格外品をそれぞれなくしていくことです。直接発注・納品というルートセールスは返品ロスが少ないと考えられますし、自販機横のゴミ箱から容器包装ゴミを回収していることも、環境・リサイクルへの評価されるべき貢献でしょう。
- 茶殻リサイクルシステムは、茶殻に残っているカテキンなどの成分の有効性（抗菌、消臭）とお茶の香りや緑色がリサイクル製品に活かされていることがポイントです。これらをアピールすれば、評価ポイントになるのではないのでしょうか。また、茶殻に残っている抗酸化作用を活かした堆肥化なども検討していただきたいと思います。
- リサイクルとは、「出口理論」と言って、需要がどれくらいあるのかを前提としたリサイクル製品の用途やアイテムを考えていくことが原則ですので、今後、需要把握が必要となるでしょう。

### 地球温暖化対策

- 地球温暖化対策では、温室効果ガス削減のための自動販売機の節電や、営業車に関する環境対策などに取り組みられていることは重要だと思います。

### 地域と環境

- 「あいち海上の森」の取り組みのように将来にわたって自然を適切に保全しつつ、環境学習、里山保全活動や森づくり活動の場として活用する事業への協力は、極めて有意義だと思います。一過性でなく継続的に行うことが大切です。

### 農業振興と環境貢献

- 茶産地育成事業は、お茶のリーディング企業として大変良い取り組みだと思います。環境面に配慮した適正な施肥などを含めて、耕作放棄地を活用し茶畑を増やしていくことは、お茶文化の継承および農業振興にもつながっています。結果的に環境保護にもつながるといふ多面的機能があると考えられます。

※有識者懇談会当日は急用にてご欠席でしたので、後日インタビュー形式でご意見を伺いました。



牛久保 明邦氏  
東京情報大学学長

## 伊藤園の対応

### ● 環境マネジメントシステム

伊藤園の全事業所で環境マネジメントシステムのISO14001認証を取得しています。（笹谷・取締役、環境・CSR担当）

### ● 茶畑から茶殻までの環境対策と参画型の活動

茶殻リサイクルシステムを活用しており、茶産地育成事業と合わせると、「茶畑から茶殻まで」環境配慮しています。これらの活動は、すでに色々な所でご紹介しておりますので、今回は2011国際森林年などの参画型の活動をご紹介します。皆様のご意見を踏まえ、今後の幅広い環境活動をCSRとして実践して参ります。（笹谷）

### ● 営業活動を通じた環境対策

各営業拠点では、営業車のエコドライブを推進し、目標を決めて燃料使用量削減を図っています。また、現在、消費電力が少ないヒートポンプ式自動販売機を全自販機台数の30%強使用していますが、2013年度には50%以上を目指します。（鈴木・環境部長）

### ● 2013年度中期環境目標・2011年度短期環境目標

8つの重点環境対策を推進しています。（鈴木）

（詳細 <http://www.itoen.co.jp/files/user/pdf/csr/system/2011.pdf>）